



特別号
平成25年9月16日
発行
多治見市教育研究所
URL:<http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>

本紙は多治見市教育研究所のホームページ上でもご覧いただけます。

平成25年度

全国学力・学習状況調査の結果

平成25年4月24日に「全国学力・学習状況調査」が小学校6年：国語・算数、中学校3年：国語・数学で実施されました。多治見市の児童生徒の結果やそれを受けての取り組みについては、次の通りです。

1 学力調査の結果から

平成25年度の全国学力・学習状況調査の結果では、市内小学校と中学校の平均正答率は、国語のA（【知識】に関する）問題・B（【活用】に関する）問題ともに全国平均・県平均を上回っている。また、算数・数学においてもA問題・B問題ともに全国平均・県平均を上回っている。

（1）小学校の平均正答率を領域ごとで見ると

〈国語〉

- ・【知識】に関する問題の「書くこと」はおおむね全国及び県の平均正答率を上回っている。「言語事項」のスピーチの工夫など一部の問題で全国及び県の平均正答率を下回った。
- ・【活用】に関する問題においては、すべての領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）において全国及び県の平均正答率を上回っている。

〈算数〉

- ・【知識】に関する問題は、おおむね全国平均・県平均を上回っている。
- ・【活用】に関する問題は、一部の問題で全国平均をやや下回っている。

（2）中学校の平均正答率を領域ごとで見ると

〈国語〉

- ・【知識】に関する問題は、おおむね全国平均・県平均を上回っている。
- ・【活用】に関する問題においては、すべての領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）において全国及び県の平均正答率を上回っている。
- ・全国、県平均と比べると、【知識】に関する問題より【活用】に関する問題の正答率が高い傾向がうかがえる。

〈数学〉

- ・【知識】と【活用】に関する問題ともに、ほとんどの問題で全国平均・県平均を上回っている。
- ・全国、県平均と比べると、【知識】に関する問題より【活用】に関する問題の正答率が高い傾向が伺える。

(3) 結果を踏まえて多治見市として各学校で取り組むこと

今回、出題されている問題で、正答率が低かった問題は、しっかりとできるように取り組む。この結果は、これまでに各校で取り組んできた脳活・スキルアップ学習の成果でもある。そこで、これらの取り組みを継続・発展させていくことが大切である。

～具体的な改善点について～

○小学校国語では、

- ・「言語事項」に関しては、ことわざの意味や俳句の情景をとらえる学習を大切にする。さらに、広告を読み編集の特徴を捉えるなどの活用する力を養うために、国語でつけた力を他教科や活動で活用する場を意図的に仕組む。

○小学校算数では、

- ・概数の意味や平均の意味などを十分に理解させる。
- ・文章を自分で読みとり条件を整理する力や自分の考えを説明する力の育成を図る。

○中学校国語では、

- ・「言語事項」に関しては、ことわざの意味や歴史的仮名遣いの理解の学習を大切にする。

○中学校数学では、

- ・「関数」に関しては、表・グラフ・式とを関連づけて考察する力の育成を図る。

市全体でみると以上のようになるが、各校でその実態は異なっている。自校の現状把握・検証を再度行い、各校で工夫をした取り組みを行うことが必要である。さらに、授業のユニバーサルデザイン化を図り、どの子どもにもわかりやすい授業づくりの推進を図る。

※授業のユニバーサルデザイン化（特別な支援を要する子どもに配慮した授業づくりをしていくことが、学級のすべての子どもにとってわかりやすい授業となる。）

2 生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の結果から

質問の内容	小学校		中学校	
	県	全国	県	全国
毎朝朝食は食べていますか。	○	○	○	○
早起きはしていますか。(午前7時)	○	○	○	○
早寝はしていますか。(午後10時)	△	△	△	△
1日あたりの家庭学習の時間は。	○	○	○	○
授業の予習と復習をしていますか。	△	△	○	○
読書は好きですか。	△	△	○	○

(○は上回る。△は下回る。)

今後一層「習慣向上プロジェクトたじみプラン」をもとにした取り組みを進めていきたい。学校の実態に応じた取り組みを行う必要がある。